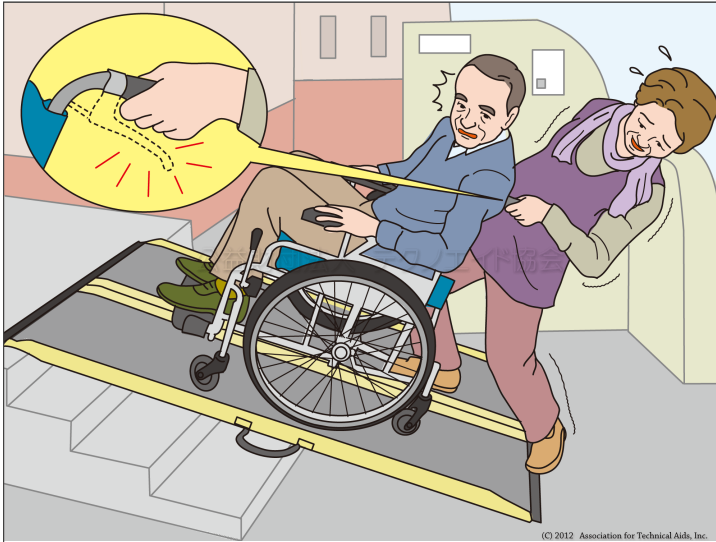


Case : 126

手押しハンドルにブレーキがついておらず、ひっくり返りそうになる

場面の説明

スロープで下りている際、車いすと利用者の重さを身体で受け止めきれなくなり、ひっくり返りそうになった



利用シーン	 移動  階段の昇り降り  外出
主な利用場所	 階段  玄関  段差・縁石
介護保険の種目	 車いす
分類コード (CCTA95)	122103 (介助用車いす)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

ゆるやかそうに見えるスロープでも、実際に介助してみると想像以上の重さがかかります。特に下りでは、身体で重さを受け止めるのではなく、ブレーキをかけながらスピードをコントロールすることで、身体的にも楽で安全に介助することが可能です。スロープでの介助が必要なときにはブレーキのついた製品を選ぶことが基本です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：車いすと利用者の重さを受け止める体力がなかった
- 人：手押しハンドルにブレーキがついている車いすがあることを知らなかった
- 人：外出する機会があるにもかかわらず、ブレーキ付き車いすを提供しなかった
- モノ：ブレーキがついていなかった

日付：	所属：	氏名：
-----	-----	-----

Case : 126

手押しハンドルにブレーキがついておらず、ひっくり返りそうになる

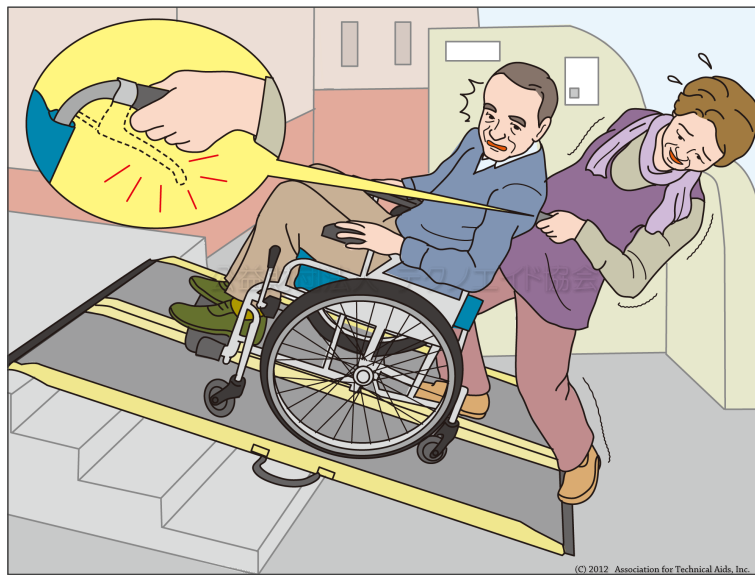
事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

スロープで下りている際、車いすと利用者の重さを身体で受け止めきれなくなり、ひっくり返りそうになった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ